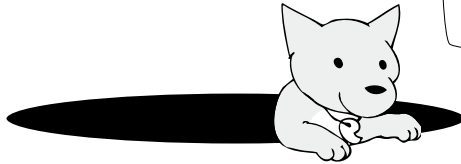


弥生時代の墓

人が亡くなると棺に入れ、地面に掘った穴に埋めます。これを墓といいます。

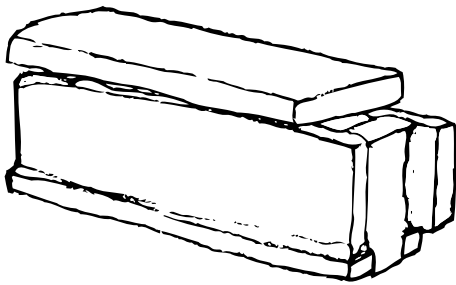
弥生時代には、日本の各地域で違う墓が作られていることから、地域ごとに葬式などの習慣が違っていたことがわかります。

弥生時代のお墓では、棺をいれた穴の上に土を盛りあげて、小さな山のようにしていました。その後は、底に穴をあけた土器をならべておまつりをしていました。

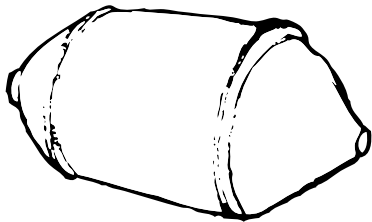


☆ 2つの棺をくらべてみよう

展示してある2つの棺は何でできているのか、()に書きこんでみよう。また、どこの地域でみつかったのかな。例のように、地図の中から探して○で囲んでみよう。



()



()



例
福島県でみつかった子供用の土器の棺だよ。

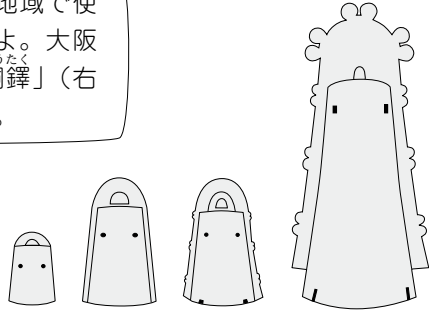


弥生のまつり

今でも夏や秋などには祭りをおこない、神に農作物の豊かな実りを願い、感謝します。今では地車や神輿が祭りの道具として使われていますが、弥生時代には銅鐸や銅矛などの「青銅器」が使われていました。

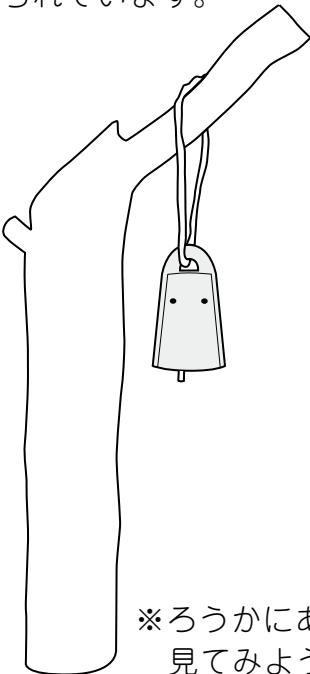


青銅製の祭りの道具は各地域で使われている種類が違うのよ。大阪などの近畿地方では、「銅鐸」（右図）が使われていたのよ。



間く銅鐸から見る銅鐸へ

銅鐸は、初めは大きさも小さく飾りも少ないけど、しだいに大きく、飾りも多くなっていきます。このことから“音を鳴らす道具”からその姿を“見る道具”へと変わっていったと考えられています。



※ろうかにあるから
見てみよう。

☆復元された「平成の銅鐸」を描いてみよう。

※展示室のまん中の高い台にのってるよ。